



サタデースクール通信

2020年 5月29日 発行
教育委員会 生涯学習推進課

サッポロサタデースクール事業は、子どもたちにとって土曜日を始めとした休日を充実したものとし、地域と学校との連携・協働の仕組みを整え、地域全体で子どもを育てる環境を醸成することを目指しています。



《 令和2年度の事業活動について 》

新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底を図るため、現在、事業運営委託契約の準備を見合わせています。事業を開始できる状況になりましたら、各運営協議会及び各学校あてお知らせします。

事業再開後の運営に向け、昨年度視察させていただいたプログラムをご紹介します。今後のプログラム企画、または地域に開かれた学校づくりの参考としてください。

■ 「紙飛行機体験」(琴似中央小学校地域連携協議会)

全日本紙飛行機選手権大会入賞経験者から、大会で使われている紙飛行機の実演を披露いただいた後、スチロール紙や折り紙による紙飛行機の作り方や飛ばし方を学びました。子どもも大人も、遠く長く飛ばそうと何度も試み、思わず夢中になってしまう姿が随所に見られました。



■ 「ダブルダッチ教室」(厚別西小学校地域連携協議会)

2本のロープを使って跳ぶ縄跳び「ダブルダッチ」を学ぶ企画。北海道ダブルダッチ協会の皆さんのパフォーマンスに興味関心が高まります。縄跳びの基本や短縄跳びの技、ダブルダッチの跳び方のコツなどを丁寧に教わり、子どもたちは縄跳びの技の習得に熱中していました。





■「アクセサリーをつくろう」(東札幌小学校サタデースクール運営協議会)

厚生労働省ものづくりマイスター制度を活用して、北海道貴金属工芸組合から職人の方をお招きしました。製品が作成される仕組みや金銀など貴金属の市場取引相場の講義を受けた後、ネックレスづくりに挑戦。純銀が含まれた粘土を焼き、ステンレスブラシで磨くと銀色に変わります。子どもたちはその様子に驚嘆しつつも、丁寧に磨いて仕上げました。



■「カラーアナライズ教室」(新琴似北小学校サタデースクール事業運営協議会)

光と色について体験的に学ぶ講座。回折格子シートを使った「電球の光」の観察と、緑と赤のカラーシートを使った色の見え方の違いの観察を行いました。学んだ内容を踏まえて、緑のシートと赤のシートで見え方が変わる文字や絵を描き、鑑賞しあいました。



■「おうちパン講座」(札幌緑小学校地域連携協議会)

親子で料理体験する企画。講師からパンはどのように出来上がっているのか、材料の分量で仕上がり方がどのように変わるのかなどのお話を聞いた後、パン作りに取り組みました。お父さん方の参加も多く、はりきり具合に笑い声もあふれ、楽しそうにパン作りを行っていました。親子のコミュニケーションも深まりました。





■「子どもと大人の遊びの広場」(青葉小学校サタデースクール実行委員会)

青葉町自治連合会、青葉まちづくりセンター、地域の関係団体が連携して、小学生と地域の方々が交流する企画を実施。青葉中学校合唱部とバイオリン奏者による演奏の鑑賞、体育振興会による「タオル風船運びリレー」や青葉小5年生の企画・進行による「ラインナップ」などの交流ゲームを通して、地域の方々とふれあい、心温まる機会となりました。



■「プレーパーク」(信濃小学校地域連携協議会)

そりやスコップ、雪玉製造機、スノーキャンドル作りの道具などを用意し、自由な遊びを創造するプレーパークを企画。子どもたちは、雪や寒さを生かして、そり遊びや雪像・イグルー作りなど行い、友達同士や地域の方々との交流を深めました。



■「太鼓体験」(栄中学校サタデースクール運営協議会)

校区の小学6年生と保護者を招き、太鼓部が演奏を披露。招待者も太鼓に触れ、演奏の楽しさ・奥深さを体験してもらいました。生徒たちは、地域の文化を担うこと、受け継いでいくことの大切さを感じた様子でした。また、次年度入学する小学生との良い交流の機会になりました。





■「パラカル」(みなみの杜応援団)

東京オリンピック・パラリンピックを契機にスポーツの魅力を体験することを目的とした企画。札幌新陽高校との共催で行いました。シットバレーやボッチャ、フライングディスクなどの体験ブースが設けられ、ルールや種目の特徴を学びました。また、元バレーボール日本代表や元体操日本代表の方をお招きし、スポーツ選手と交流したり、選手時代の経験を通じた講演を聴いたりして学びを深めました。



《 プログラムの企画にあたって 》

サッポロサタデースクールは、地域と学校が連携して子どもたちに多様な学びや体験の場を提供する事業です。企画にあたっては、次のことに留意し、内容を工夫しましょう。

★資格試験や検定の受験のみにならないようにしましょう★

資格試験や検定は、学びの成果を試す場＝目標です。サタデースクールは、目標を見つける動機付けや目標達成に向けて学ぶ場になるように工夫しましょう。

★部活動での技術指導や、特定のクラス・学年のみの参加にならないようにしましょう★

事業の対象者は「実施校の児童生徒」です。会場や使用する道具・材料などの都合で、定員を設けるのはやむを得ませんが、希望する児童生徒が参加できることが大切です。特定の児童生徒のみを対象にしないよう、応募者多数の場合は抽選にする、低学年と高学年、経験者と未経験者などでレベル分けするなど、工夫しましょう。

《 教育委員会からのお願い 》

2019年9月に行った事業実施意向調査では、サッポロサタデースクール事業以外で地域と学校が連携している活動事例を教えてください、ありがとうございました。

地域と学校の連携・協働の輪がさらに広がるよう、サッポロサタデースクール事業は、実施拡大を目指しています。既存の協働活動が他の学校のサタデースクール事業の参考になったり、既存の協働活動をサタデースクールとして行うことでより内容の充実を図れる可能性があるのではと考えています。状況が落ち着いてきましたら、学校訪問を検討していますので、ご協力をよろしくお願いいたします。新規実施のご相談も随時承っております。

